

# Q&A

問題解決!

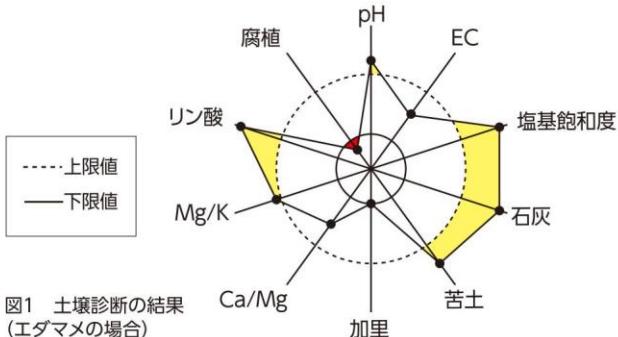
北部農業センター 農産課 営農主幹  
氣賀澤 洋亘図1 土壤診断の結果  
(エダマメの場合)

写真1 ウメの縮葉病



写真2 は種1週間後の苗床

写真3  
収穫直後のエダマメ図2  
定植適期のエダマメ苗

**Q2** 4月に、梅の新芽付近の葉が縮んで、葉の色が赤くなるのはどうですか。近くに桃の木があるのですが、問題がありますか。

**A1** 煙の土壤診断を行ったら、pHが7.5で、高いといわれました。エダマメを栽培したいですが、pHを下げる方法がありますか。

エダマメの栽培に適した土壤pHは5.8～6.6とされています。7.5はかなり高いですね。図1のようにpHは上限値を超えていませんが、腐植とカリは下限値を下回っています。堆肥などで土づくりが必要です。

pHが高いのは、図1のように石灰と苦土が多いことから、苦土石灰を前作で多く施用したのです。7.5はかなり高いですね。pHが7以上だと、野菜が必要とするホウ素やマンガンが土壤中で溶け出しにくくなり、生育途中に野菜が吸えなくなつて、欠乏症が起きる心配がありますね。

土壤pHを急に下げる事は難しいですが、ホウレンソウやエンドウの野菜を選ぶとよいかと思います。1作でも他の野菜を栽培することと、降雨等で自然にpHは少しづつ下がりますので、7以下になると想います。無理して下げる時は、硫安か過剝混和すれば、土壤pHが0.3程度下

げることができます。逆に多く施用すると、窒素等の過剰が心配されますので、注意してくださいですね。土壤診断は、いつでも可能です。事前にJA支店等に乾燥した土をお持ちください。

梅の新芽が伸びる時に、葉が縮むようになつてお餅のように部分的に膨らむのは、縮葉病といふ病気ですね。新葉が成長する時に赤くなる(写真1)こともあります。縮葉病は、梅より桃に発生しやすいことから、同時に防除が必要です。発病後は、葉が枯れて落葉し、ひどくなると枝まで枯れます。新葉が芽吹きとともに新葉に感染し、発病します。発病してからの防除は効果ありませんので、葉の出る前に必ず防除したいです。

発病した葉は摘みとつて焼くか、土に埋めて処理したいですが、2月下旬の芽が出る時期に、石灰硫黄合剤かオーソサイド水和剤80で、桃の木と一緒に防除したいですね。

**Q3** 収穫したばかりのおいしいエダマメを食べたいのですが、いつからは種することができますか。

**A3** エダマメは、早朝の収穫直後に熱湯で茹で上げたものがおいしいですね。栽培した人だからこそ楽しめるせいです。

エダマメは、トンネル被覆の栽培が可能ならば、3月上旬からは種が可能です。この時はポットや育苗床(写真2)を使って集中的に苗をつくり、2週間後を目途に移植します。移植は、図2のように本葉が見え始めた頃が適期で、長く苗床に置くと茎が伸びた徒長苗になりやすいです。被覆しない場合は、4月上旬からが適期で、その後は7月上旬までいつでもは種できます。

エダマメは、は種後45日で開花し、花後で早生種が35日、中生種で40日、晩成種は45日が収穫日の目安になります。開花後2週間の時にマメシングイガなどの防除を行うと、食害のないエダマメが楽しめます。

さやが大きくなつてきます。収穫時期は品種によつて異なりますが、開花後で早生種が35日、中生種で40日、晩成種は45日が収穫日の目安になります。開花後2週間の時にマメシングイガなどの防除を行うと、食害のないエダマメが楽しめます。